

世代を超えた学びを社会に実装

これからの教育は「Mutual Growth by Lifelong Active Learning」

未来に求められる教育とはどういうものなのか。三菱総合研究所理事長、東京大学第28代総長で、超教育協会会長を務める小宮山宏氏はキーワードとして「Mutual Growth by Lifelong Active Learning（生まれてから死ぬまでアクティブラーニングによる相互成長）」を挙げた。

「超教育協会」は昨年6月に発足しました。まだ細かなところは固まっていますが、教育にITを組み込み、教育改革を先導しようという目的で設立したものです。今年4月には、デジタル教科書教材協議会（DiTT）と合併しました。

私は、これからの時代、誰かが先生で、誰かが教わるという従来の教育の形が変わると思っています。幼児教育でも一方的に教えて詰め込むわけではありません。小さな子供から教わることもあるのです。「Mutual Growth by Lifelong Active Learning（生涯アクティブラーニングによる相互成長）」こそ、新しい教育の形だと思っています。

時代に合わない既存の学校教育

「Mutual Growth by Lifelong Active Learning」とは、協同作業を通じて相互に学び、成長することです。その時にITは欠かせません。私は4歳の孫がいるのですが、あっという間に折り紙の折り方をスマホで検索するんですよ。ITの力によって



小宮山宏 HIROSHI KOMIYAMA

一般社団法人超教育協会会長
1972年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了後、東京大学工学部長等を歴任。2005年に第28代東京大学総長に就任。2009年に総長退任後、同年三菱総合研究所理事長に就任。2010年には「プラチナ構想ネットワーク」を設立し、会長に就任。2018年に超教育協会会長に就任。

74歳の私が4歳の子どもから学ぶこともあるのだと実感しています。

現在の情報技術の発達は革命です。多様な人が集まれば、そこから新しい何か生まれる可能性が高まりますが、これまでは物理的な距離や時間の制約があって集まること自体が簡単ではなかった。今はスカイプなどを使えばいつでも、どこにいる人ともミーティングできますよね。ITによって、できることが飛躍的に増えた今だからこそ、国ではなく民間主導で教育改革を主導すべきだと思います。

私は東大の総長をしていたのでわ

かりますが、今までの学校教育は決して悪いものではありません。でも、同じような人間を同じように育てる教育、先生が一方的に話してそれを聞くだけの教育、教科書とノートと黒板に頼る教育が時代に合わなくなってきているのは間違いない。だから、デジタル分野に関してはDiTTなどを通して法改正を訴えてきて、それが少しずつ成果になったわけですが、改めて痛感したのは、やはり既存の教育システムを変えるのは時間がかかるということです。指導要領を変えるのに5年、それを現場に浸透させるのに5年はかかるでしょう。そうでなくてもIT教育では既に後進国なのに、10年もかけたら本当に教育劣等国になってしまいます。国がなにかし

てくれるのを待っていてもいつになるかわからないのだから、民間が実装に動くべきなのです。

多世代で学ぶ場をつくる

私が考えているのは、学校の外に「Mutual Growth by Lifelong Active Learning」の場をつくることです。

会長を務めるプラチナ構想ネットワークでは、小学生向けにロボットスクールを始めています。すでに10か所ほどでやっていて、会場は多くの場合大学ですが、大学の先生が教えるわけではありません。ロボットクラブ、AIクラブの学生が教えるのです。例えば、長崎大学で始めたスクールは、小学5、6年生25人に、ロボットクラブの学生、三菱重工のOB、それぞれ数名の3世代で実施しています。学生は教えることで、自分たちの理解も深まります。もちろん、学生は教えることに慣れていないので、そこに知識や人生経験のある、企業を引退したシニアが加わるわけです。シニアは全体をサポートしながら、自らの意思で社会に参加し続けることの喜びを学ぶのです。学生はシニアとの触れ合いからさまざまな学びます。それを見るのが子供にとっての学びです。社会が失った多世代のつながりが生まれているのを確信します。これを全国10か所ほどで、さまざまな組合せで、実験しているのです。

種子島では、19の大学が集結して、大学生が高校生に教え、研究者がサポートするという形で島の未来を考えるプログラムを始めました。これによって高校生たちが自分たちの島に関心を持つようになるだけでなく、大



超教育協会は先端技術の教育利用促進に関するワーキンググループやセミナーを展開



学生が元気になっています。また、これまで連携の少なかった、島の医師会や農協、森林組合などが協同する動きが新たに生まれました。

もうひとつ、中学生向けのプロジェクトも始めました。夏休みに5泊6日で、二子玉川にある東京都市大学の夢キャンパスで未来塾を開催しています。多摩川を見下ろし、対岸に川崎市の街並みを臨む素敵な空間です。全国から一校一人、百人の中学生が参加します。私自身も話しますし、また建築家の安藤忠雄さんや元日銀総裁の白川方明さんなどをお呼びして講演いただいたりもしますが、メインは大学生のボランティアがチューターを担当、シニアの方たちがサポートをしながら、一緒に未来を考えるグループワークです。大学生ボランティアやNPOのメンバーには男性、女性、若者、高齢者、外国人もいます。自由と多様性が人の元気の素だと、気が付きました。

こうした多様なグループがひとつのテーマについて考え、一緒に学ぶ。これこそが「Mutual Growth by Lifelong Active Learning」だと考えています。

このような形で既存の学校システムの外でいまの教育を補うほうが、国

に訴えるよりスピーディーでしょう。もちろん、新しい取り組みなのでその効果はまだはつきりしていません。しかし、そもそもこれからの時代に必要な「個性を育てる」という教育は、これまで誰もしたことがないのだから、良いと思うことをやってみるしかない。「教育で実験すべきじゃない」という批判もありますが、新しい取り組みを否定して「なにも変えないこと」だとして、実験の一つに過ぎないでしょう。「速く激しい変化」、これこそが時代の本質なのです。

「教育する」と訳される英語の「Educate」の語源は、「能力を導き出す、引き出す」という意味です。しかし今は、一世代の間に状況が変わってしまい、過去の経験だけでは対応できません。誰が引き出すのか、それ自体が難しい時代なのです。学校の先生だけに任せておけばよいとは思えません。社会の助太刀が不可欠なのです。民間レベルで、よかれと思うことを多くの人が試し、そのなかで良いものが残っていく、それが現在の正攻法でしょう。

「超教育協会」は時代に合わせて人々が成長するシステムとして、そういった新しい動きを生み出していきたいと考えています。